

2023 年 2 月 27 日

2022 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士論文

患者の意向とチーム規範が対立する PCU の多職種カンファレンス
に働きかける看護師の思考とその影響要因

Nurses' Reasoning Process and Factors Influencing Their Approach
in Palliative Care Unit Interdisciplinary Meetings
for Cases wherein Patient Preferences Are in Conflict with Team Norms

21MN025
高野真優子

要旨

「目的」患者のケア方針を決定する緩和ケア病棟の多職種カンファレンスで、患者の意向とチーム規範の対立に違和感を覚えた看護師が、いかにチームの議論へ働きかけるのか、看護師の思考と働きかけへの影響要因を明らかにし、価値対立場面において、看護師が患者の最善を実現するための思考と行動への示唆を得ることである。

「方法」緩和ケア病棟で1年以上勤務した経験があり、看護師長、専門看護師、認定看護師ではない看護師に、患者の意向とチーム規範が対立するカンファレンスでの思考と働きかけ（発言）に影響した要因について半構造化インタビューを行った質的記述的研究である。分析はクリッペンドルフの内容分析手法を用いた。本研究は、聖路加国際大学倫理審査委員会の承認（承認番号：22-A010）を得て実施した。

「結果」研究対象者は15名、分析対象はチームの議論に働きかけた（発言した）15場面と働きかけられなかった（発言できなかった）13場面であった。患者の意向として【最期の療養場所】【苦痛緩和】【日々の過ごし方】【侵襲的処置】の4つのテーマ、対立するチーム規範として【医師や管理者の意向に従うべき】【臨床経験からの判断は正しいに違いない】

【患者と密接に関わってきた人の顔を立てる】【まず家族の事情を優先すべき】【患者の客観的な症状を優先する】【医療者が適切と考える方針に患者の気持ちが向くのを待つ】【自分たちが考えるより良い最期を実現すべき】【まず患者間の公平性を重視する】【トラブル回避のための関わりに限定する】の9つのカテゴリーを抽出した。チームの議論へ働きかける（発言する）かどうかの看護師の思考（判断の根拠）として、【命の有限性】【患者の意向】【患者の利益・不利益】【判断不能】【みんなの意見】の5つのテーマを抽出した。チームの議論に働きかけた（発言した）ときの判断の根拠は『患者のいのち・患者の意向』、働きかけられなかった（発言できなかった）ときの根拠は『みんなの意見』という違いが示された。チームの議論への働きかけ（発言）の影響要因は、【患者の代弁者としての役割意識】【患者の主担当】【患者の意向の把握】【患者の意向実現に向けた経験】【賛同するチームメンバーの存在】【看護師経験年数】の6つのテーマを抽出した。これらの影響要因の背景には患者との関係性があった。

「結論」チーム規範自体が患者中心性を阻み、そのようなチーム規範を内在化したカンファレンスは、チームの結束を強めるよう働いていることがわかった。緩和ケア病棟の多職種カンファレンスで患者中心性を実現する上で、患者の意向を軸として議論できているのかメンバーは考えながら参加する必要がある。患者の意向よりも優先され得るチーム規範に対して看護師は、患者のいのちや意向を判断根拠として、患者の意向が尊重されない理由を明確にするようチームに働きかけることが求められる。